

平成 27 年 10 月 20 日現在

機関番号：25501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520755

研究課題名(和文)能力記述を使った外国語学習者の自己調整学習能力の育成に関する研究

研究課題名(英文)Considering the use of can-do statements to develop foreign language learners' self-regulated learning ability

研究代表者

サリバン クリステン(Sullivan, Kristen)

下関市立大学・経済学部・准教授

研究者番号：80514132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は外国語教育における自己調整学習能力の育成を目的に作成された能力記述を用いる学習ポートフォリオ(学習進捗表)を使用している学生および教員とのインタビューやアンケート分析から、自己調整学習能力の育成を強化する要因および妨げる要因を特定した。自己調整学習は学習者自身が一人で行うことだと考えられがちだが、本研究からは、社会的要素(特に「きっかけの有無」「社会的ディスコース」「共有の理解」)が重要な役割を果たしていることが分かった。これらの要因に配慮したアクティビティや教室における学習進捗表の使い方及び教員の役割、学習開発を目的とした評価理念を取り入れている評価方法などを考案した。

研究成果の概要(英文)：Through analysis of interview and survey data from students and teachers using a portfolio incorporating curriculum linked can-do statements (the Study Progress Guide) designed to develop students' ability to self-regulated their learning of English as a foreign language, this investigation identified several factors which both support and disrupt attempts to have learners engage with self-regulated learning (SRL). SRL is often thought to be something that learners do by themselves. However, this project showed that several social factors such as the presence or absence of catalysts, social discourses, and shared understandings play a crucial role in the development of learners' ability to self-regulate their learning. Based on our results, we have proposed guidelines for best use and design of the Study Progress Guide and similar materials and activities, and have made recommendations regarding the role of the teacher in the development of SRL ability, and best assessment practices.

研究分野：応用言語学

キーワード：外国語教育 自己調整学習 self-regulated learning 能力記述 can-do statements

1. 研究開始当初の背景

外国語能力は授業を受けるだけでは十分に向上しない。授業以外の学習が不可欠である。また、学校教育が終わった後も外国語能力を維持させ、さらに向上させるためには学習者が自ら外国語学習を続けることが必要となる。そのため、自律的に学習ができる学習者を育てることが求められている。自律した学習者を育てるにはどうすればよいか。自律的に語学学習に取り組む機会を学習者に与えることが学習者の自律につながるとされてきたが、近年は自律的学習における自己調整学習能力の重要性が注目され始めている。自己調整学習とは学習者がメタ認知の面、動機づけの面、また行動の面で、自らの学習過程に積極的に関与している学習と定義されている。自己調整学習を行っている学習者は3つの段階 (planning/goal setting; performance/monitoring; self-reflection/evaluation) から構成される学習過程を通して学習すると言われる。自己調整学習能力は育成できるとされており、自己調整学習能力を育成する機会を外国語教育に取り入れることの重要性が訴えられている。

英語学習者の自己調整学習能力の育成を目的に、下関市立大学の英語実習シラバスと連携している能力記述および自己調整学習の過程の二つを取り入れている学習ポートフォリオ (学習進歩表 Study Progress Guide) を開発し、1年生と2年生の英語実習授業に授業外の課題として活用した。しかし、学生および教員の学習進歩表の活用方法や学習進歩表に対する理解がバラバラであること、使用効果が学生によって大きく異なっていることをアンケート調査や授業観察で分かった。その理由を特定し、学習進歩表やその他の自己調整学習育成のための教材やアクティビティの開発に活かせることが本研究を行う動機となった。

2. 研究の目的

本研究の主な目標は学習者の自己調整学習能力の育成を強化する要因および妨げる要因を特定し、これらの要因に配慮した学習進歩表の最善な内容・形式および使用方法を提案することである。また、多くの関係者に自己調整学習能力の育成の重要性を訴え、具体的な育成方法が指示できる状態になることも大きな目標であった。

3. 研究の方法

学習進歩表を使用している学生とインタビューを行い、インタビューデータの内容分析により自己調整学習能力の育成を強化する要因および妨げる要因の特定に取り組んだ。インタビューから得たデータを補うために学習進歩表を使用した学生全員を対象にした学習進歩表の使用および学習信念に関する回答選択肢方式のアンケートも実施し

た。授業で学習進歩表を使った教員の学習進歩表および自己調整学習に対する考え方を調べるためには自由回答方式のアンケートを実施し、回答の内容分析を行った。

4. 研究成果

自己調整学習は学習者自身が周りから離れて一人で行うことだと考えられがちではあるが、学生とのインタビューからは社会的要素が重要な役割を果たしていることが分かった。特に、「きっかけの有無」、「社会的ディスコース」、「共有の理解」という要素は自己調整学習能力の育成および自己調整学習能力育成を目的にした学習進歩表への活用及び理解に大きく影響していると言える。学生の今までの学習経験および実際の語学使用の経験、人やアイデアとの出会い、(語学)学習や(語学)教育に関する信念や学習者である自分に対する信念などが複雑に働き合って学生に影響を及ぼす。このように自己調整学習能力の育成は co-regulation 及び other-regulation を通じてできていると考えられる。これをよく理解していなければ、自己調整学習能力の育成の取り組みは成功しない。学習進歩表のような自己調整学習能力を育成するための教材やアクティビティに対する学生の理解や反応は彼らの今までの経験により形成される。それぞれの学習者の経験が異なるので、学習進歩表への理解も当然異なる。学生の経験や理解を活かしながらまたは補いながら、共通の理解を作り上げなければならない。ここで重要な役割を果たすのは教員の存在ではあるが、学習進歩表を使っている教員に対して行ったアンケート調査の分析からは、多くの教員は自己調整学習能力開発における教員自身の役割を十分に理解していないことが分かった。多くの教員は学習進歩表の使用を十分にサポートせずに、学習者の学習進歩表の利用状況をただ「評価」しているだけということ把握した。しかも、殆どの教員は「伝統的な」評価理念 (できる学生とできない学生を分けることを重視する理念) を用いている。自己調整学習能力育成を目的にした教材開発を行い、教室に導入していても、教員は学習者の能力開発の可能性を信じ、それを可能にするためのサポートを十分に与えない限り、学習者の自己調整学習能力育成は実現されないという結論に至った。

学生とのインタビューや教員とのアンケート調査のデータ分析の結果を受けて、学習進歩表の内容や形式の大幅な改善に加え、より効果的な使用方法及び利用指針の考察を行い現場で実施している。学習開発を目的とした評価理念やその理念を取り入れている評価方法・基準を考案し、現在現場で活用しているところである。学習進歩表以外の形でどのように学生の自己調整学習能力育成に取り組めばよいか、またなぜこのような取り組みが必要であるかについても私たちの研

究結果や経験に基づいて提案を築き、研究発表や論文を通じて発信している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

Collett, P. & Sullivan, K. (Eds.) (2014). SiSAL Journal Special Issue on Self-Regulation in Foreign Language Learning, 5(4), 315-479.

Sullivan, K. (2014). Reconsidering the assessment of self-regulated learning in foreign language courses. SiSAL Journal, 5(4), 443-459. (査読有)

Sullivan, K. & Collett, P. (2014). Exploiting memories to inspire learning. In N. Sonda & A. Krause (Eds.), JALT2013 Conference Proceedings, pp. 375-382. Tokyo: JALT. (査読有)

Collett, P. & Sullivan, K. (2013). Social discourses as moderators of self-regulation. In N. Sonda & A. Stewart (Eds.), JALT2012 Conference Proceedings, pp. 255-265. Tokyo: JALT. (査読有)

Collett, P. & Sullivan, K. (2013). The social mediation of self-regulated learning. In M. Hobbs & K. Dofs (Eds.), ILAC Selections: 5th Independent Learning Association Conference 2012, pp. 119-120). (査読有)

Sullivan, K. (2012). Considering the importance of course-based learning objectives for developing learners' ability to negotiate their learning goals. In A. Stewart & N. Sonda (Eds.), JALT2011 Conference Proceedings, pp.135-142. Tokyo: JALT. (査読有)

〔学会発表〕(計 16 件)

Collett, P. & Sullivan, K. Developing self-regulated learning strategies: The teacher's role. DRAL2/ILA2014, King Mongkut's University of Technology Thonburi (Bangkok, Thailand), 2014.6.13.

Collett, P. & Sullivan, K. Exploiting memories to inspire learning. JALT2013 Annual Conference, Kobe Convention Center (Kobe), 2013.11.26.

Collett, P. & Sullivan, K. Learner

development as a collaborative venture. JALT PanSIG2013 Conference, Nanzan University (Nagoya), 2013.5.19.

Collett, P. & Sullivan, K. The social dimensions of self-regulated learning, JALT2012 Annual Conference, ACT City (Shizuoka), 2012.10.13.

Collett, P. & Sullivan, K. The social mediation of self-regulated learning, Independent Learning Association 2012 Conference, Victoria University (Wellington, New Zealand), 2012.8.31.

Collett, P. & Sullivan, K. Developing resources for self-directed learning. JALT2011 Annual Conference, Olympics Memorial Youth Center (Tokyo), 2011.11.19.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
外国語学習における自己調整学習研究会ホームページ
<http://srl.shimonoseki-online.net/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

サリバン クリステン (SULLIVAN, Kristen)

下関市立大学・経済学部・准教授
研究者番号：80514132

(2)研究分担者

コレット ポール (COLLETT, Paul)
下関市立大学・経済学部・特任教員
研究者番号： 30572721

(3)連携研究者
()

研究者番号：